

武庫川だより

森田 至

武庫川と逆瀬川の合流あたりにはヤナギの仲間が多く生育しています。樹液が出ている個体は少ないのですが、出ている所にはコナラやクヌギのように昆虫が集まってきます。

・コムラサキ ・ゴマダラチョウ ・ヒラタクワガタ ・ヒゲコメツキ ・ウスバカミキリ
・ヨツボシケシキスイ ・シロテンハナムグリ ・カナブン ・カナブン青色型などです。
一部ですが、写真をご覧ください。



(コムラサキ)



(ゴマダラチョウ)



(ヒラタクワガタ)



(ヒゲコメツキ)



(ウスバカミキリ)

※原稿は随分前にいただきましたが、他の方の投稿を待っていたので、発行が遅くなりました。今は観察できない昆虫もいるかもしれません。

「何故、この樹に」 シマトネリコに群がるクマゼミ



(友人から送られてきた写真↑)

1か月前近く前になりますが、シマトネリコという木に群がるクマゼミの写真が友人から届きました。この写真を見て私も「言われてみれば確かにそうかも」と。自宅の前に植木畑があります。クマゼミと言えばサクラの木というイメージがありますが、朝から聞こえるクマゼミは確かにこの樹木にたくさんいます。1m50cmぐらいの木に多い時には1本に10匹近くが止まり大きな声で鳴いています。私が子どもの頃、翅が透けているセミを捕まえると自慢できたセミですが、今は数の多さに見向きもしませんでした。樹木と関係づけて観察するとまた違った面が見えてきますね。季節は確実に移ろい、夕方の散歩時にはツクツクボウシの声が聞こえています。(自宅前の写真8/5→)





8月の中旬から宝塚自然の家にある松尾湿原のサギソウ（ラン科）が咲いています。

サギソウは鳥の白鷺の飛ぶ姿に似ていることから名前がつき、花の美しさから人気が高い種類です。そのため愛好家や業者による記念盗掘が絶えず、兵庫のレッドリストでは絶滅危惧2類（VU）に指定されています。

生育条件は日当たりの良い湿地を好み、サギソウ（ラン科）の花形は側花弁なので、夜にスズメガなどの長い口吻を持つ昆虫しか吸蜜できない構造になっています。



このような関係（送粉生態系）は飛翔力と移動性の高い昆虫を、植物が選択的に利用することでラン科自身の遺伝子交流を増やし、種の遺伝的平衡を保つ役割があると考えられています。

幸いにも、宝塚市と宝塚エコネットさんがサギソウの生育している松尾湿原の環境を維持・保全する取り組みを長年継続されています。植物は移動できないので、埋土種子や送粉・種子運搬者を利用して生きていますが、生育する環境がなければ種を存続することはできないのです。

サギソウの花期は8月～9月なので、このような美しく可憐な花を見に行かれてはいかがでしょうか。

ニュース！

「神戸新聞 8月2日朝刊三田阪神版にカワラサイコのこと」が載りました。

宝塚 武庫川河川敷 カワラサイコ咲く
 県版レッドデータブック植物群落・個体群のBランク（消滅の危険性増大）に指定される多年草「カワラサイコ」が、宝塚市内の武庫川河川敷で咲き誇っている。小さく愛らしい花が黄色に輝き、水辺に彩りを添えている。

カワラサイコはバラ科で、日当たりがよい河原や砂地に自生する。羽状の葉を互生し、6～8月、多くの花をつける。県内では同

武庫川河川敷カワラサイコは、神戸市西宮区、西宮、尼崎、神戸、加古川、姫路、赤穂など、群落が確認されているという。

カワラサイコの保全活動に取り組む宝塚市自然保護協会によると、市内では武庫川河川敷など6カ所で群生。宝塚大橋付近（武庫川町）では、背丈が30cmほどに伸びたカワラサイコが多数の花を咲かせている。

同協会の森本敏一（副会長）は「8月初旬まで見頃は続きそう。開花しても午後にはしぼむので、観賞は早朝がお勧め」と話している。（西尾和典）

水辺を彩るカワラサイコ 宝塚市武庫川町、武庫川河川敷

小さく愛らしく黄色の輝き

少し読みづらいかもしれませんので、最後の森本副会長の言葉を書かせてもらおうと「8月初旬まで見頃は続きそう。開花しても午後にはしぼむので、観賞は早朝がお勧め」。